

資料名	車いすの少年	出典	学校・学級講話資料 12 か月
主題名	思いやりの心	内容項目	2 - (2)
日時		学年	1 年

○ 主題設定の理由

・主題観

生徒は小学校のときより隣接の特別支援学校との交流があり，中学校に入学後も，総合的な学習の時間などにより，交流を深める計画を立てている。生徒が障がいのある人に接するとき，介助しようとすることは，自然な心の動きである。しかし，その意識は必ずしも障がいのある人の気持ちに寄り添ったものであるとは限らない。多くの生徒は障がいのあることを「かわいそうなこと」「大変なこと」と考える。だから自分は「助けてあげなければならない」と思う。しかしそれは，障がいのあることをマイナスイメージでとらえようとする見方であり，ともすれば，上から下を見下ろすような誤った価値観に結びつく場合もある。

そこで今回の授業では，障がいのある人に対する見方・接し方を見つめなおす中で，真に相手の立場に立った「思いやり」とはどういうことなのか，共生社会をつくる上で大切なのはどんな心がけなのかを考えさせるために本主題を設定した。

・生徒の実態

本学級の生徒たちは，明るく元気があり，比較的仲も良いが，自己中心的な考えの生徒も若干いる。係活動や部活動などには積極的に取り組んでおり，体育大会などの行事を通して，協力性もだいぶ培われてきたようではあるが，まだ，他人を傷つける言動や感情のなすがままの言動があり，配慮に欠ける場面がしばしば見られる。また，狭い範囲の仲間に対する同情はよく見られるが，本当に相手のことを考えて接しようとする態度になるとそれほどでもなく，頭でわかっているけれども実行できないでいる生徒も見られる。

・資料観（指導観）

資料「車いすの少年」は，困っている人を見かけたら手伝うことも大切だが，手を貸さずに温かく見守り励ますことによって，少年が自らの力で車輪を戻したときの喜びもあることを教えている。生徒たちは一般的に障がいのある人たちのことを特殊な存在の人としてとらえ「かわいそう」と思う程度で理解しようとする気持ちが乏しい者も多い。

そこで本資料を通して，互いに助け合い，支え合って生きていくために，同じ人間として相手のことを正しく理解しようとする心と，相手の立場や気持ちを考えた上で，自分が何をすべきかという判断力を育て，行動する意欲や態度を培わせていきたい。

ねらい 相手を真に思いやる心を深め，助け合い，共に向上し合える人間関係を培う。

資料準備物 読み物資料 「車いすの少年」

板書計	<p>○ 人と接するとき、どのようなことを心がければよいか</p> <p>○ 励まし続けた外国人の思いや真意は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必ずしも助けることがいいことではない。</li> <li>・ 少年が自分の力で乗り越えることが大切だと考えている</li> </ul> <p>○ 外国人に止められたときの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜとめられるのか、納得できない。</li> <li>・ よけいなことを言わないでほしい。</li> <li>・ 悔しさや怒りを感じている。</li> </ul> <p>○ 車いすの少年「わたし」の心の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車いすの少年を見ているときの気持ち</li> <li>・ 急いで駆けつけて助けようと思った。</li> <li>・ すぐに車輪を引き上げなければ。</li> </ul> <p>思いやりって何だろう？</p> <p>めあて</p> <p>本当の思いやりについて考えてみよう。</p>
-----	--

【展開】

	学習活動・内容, 生徒の反応	支援を主にした働きかけ	配 時
導 入	<p>1 障がいのある人が困っている状況になっているのを見かけた体験を発表しあう。 生徒の発言が少ない場合</p> <p>もしあなたが道路の側溝に車輪を落としてしまっている車いすの人を見かけたらどうしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に困っている人に手を貸した経験があれば想起させる。</li> </ul>	5分
展 開	<p>2 本時のめあてを確認する。 (めあて) 本当の思いやりについて考えてみよう。</p> <p>3 資料「車いすの少年」を読み, 考える。 資料を読む。</p> <p>(発問1)</p> <p>車いすの少年を見ている「わたし」はどんな気持ちになっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急いで駆けつけて助けようと思った。</li> <li>大変だ, すぐに車輪を引き上げなければ。</li> </ul> <p>(発問2)</p> <p>外国人に「ノー, ノー」と言われている時の「わたし」はどんな気持ちになっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜとめられるのか, 納得できない。</li> <li>よけいなことを言わないでほしい。</li> <li>悔しさや怒りを感じている。</li> </ul> <p>(発問3)</p> <p>「がんばれ, もう少しだ」と, 手伝いもせず励まし続けた外国人の思いや真意は何だったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必ずしも助けることがいいことではない。</li> <li>少年が自分の力で乗り越えることが大切だと考えている。</li> <li>少年に, 苦しくても自分の力でできたという満足感をもたせたいと思っている。</li> </ul> <p>4 日頃の自分を振り返る。</p> <p>真に相手を理解し, 思いやることはどういうことかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を尊重し, 相手の立場に立って行動すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弱者をいたわり, 助けるのは当然であることを理解させる。</li> <li>筆者の「なぜ?」という驚きに近い心情に着目させる。</li> <li>同じ人間として学ぶべき事柄を確認させる。</li> <li>大切なことは行為そのものではなく, その行為の向こう側にある思いやりの心だということに気付かせる。</li> <li>相手の立場を尊重しながら行動すること, 同情とは区別させる。</li> <li>「思いやり」の本当の意味について考えさせる。</li> </ul>	35分
終 末	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>教師の話聞き, 授業の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりのある言動, それに対しての対応が人間関係の基礎になることを理解させ, どうすればこれからの生活に生かせるか考えさせる。</li> <li>自己評価, 感想などから生徒の考えが深まったか確認する。</li> </ul>	10分
関 連	<p>日常の友人関係を含む学級活動と関連している。 総合的な学習の時間(特別支援学校との交流, 福祉体験活動など)と関連している。</p>		